令和元年度 小田原法務総合庁舎改修計画に伴う発掘調査

小田原城三の丸杉浦平太夫邸跡第Ⅴ地点　遺跡見学会資料

2020年1月12日（日曜日）　主催 （公財）かながわ考古学財団　共催　小田原市教育委員会・小田原城総合管理事務所

財団キャラクター はちくんとまきちゃん

Q お城の二の丸、三の丸とはどういう意味なのでしょうか？

城には堀や城壁、石垣や土塁などで囲まれた区画があって、もとは「曲輪（くるわ）」と呼ばれていました。城の中心から順に一の曲輪、二の曲輪、三の曲輪などと呼ばれていた区画が、戦国時代の終わり頃には本丸、二の丸、三の丸と呼び名が変わっていきました。今はビルや民家が建ち並んでいますが、三の丸までが城郭で小田原城の一部となります。

Q 小田原北条氏の頃のお城はどのようなものだったのですか？

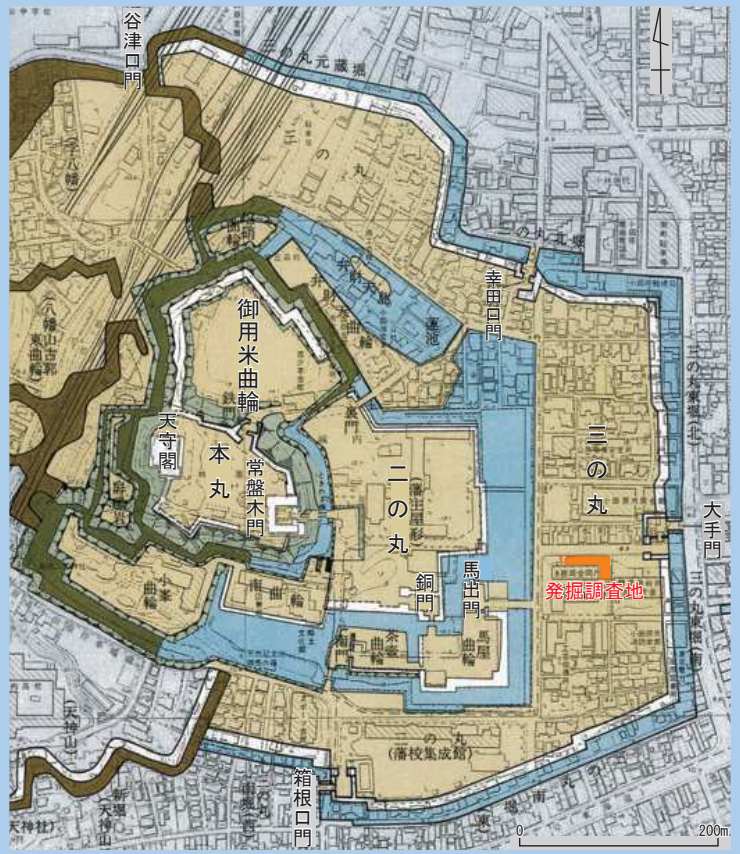
伊勢宗瑞（北条早雲）が最初に入った小田原城は八幡山とも呼ばれた場所で、城の中心は県立小田原高等学校の南東側にありました。城郭は土塁と空堀を基本に、その後大きくなって、天正15（1587）年までには丘陵の八幡山・天神山を大きく囲む堀ができました。最終的に総構（そうがまえ）という小田原城と城下町をまるごと囲む堀と土塁が造られ、小田原北条氏の拠点となった小田原城は戦国最大の城郭になりました。

調査地は横浜地方検察庁小田原支部（小田原市本町 1-131-12）の敷地内 にあります。小田原法務総合庁舎の改修工事に伴い、令和元年（2019）年 7 月から発掘調査を開始しました。調査面積は約 650 ㎡ですが、並行する仮設工事の関係で調査区全体を 4 分割して段階的に発掘調査を進めています。調査地のある小田原城三の丸は、江戸時代には小田原藩の上級家臣の武家屋敷地でした。遺跡の名称となっている「杉浦平太夫」は、江戸時代末の文久（1861～1864）年間に描かれた小田原城絵図に屋敷名を記された人物で、大久保氏小田原藩の家老を代々勤めた家中最高の千五百石取りの重臣でした。今回の調査区の南側では、平成 17（2005）年から平成 30（2018）年にかけて小田原市民ホール建設に伴う発掘調査が行われており、杉浦平太夫邸跡と大久保弥六郎邸跡にまたがって 10,000 ㎡を超える面積が調査されています。これら一連の調査では、杉浦平太夫邸の屋敷に関わる建物礎石や井戸、池跡などの遺構が見つかっており、高級磁器の鍋島焼など上級武士の暮らしぶりを伝える様々な遺物が出土しました。また、中世の遺構面では、両路側に石組み溝をもつ東西正方位の幅 6mの幹線道路と町割りの痕跡を示す東西・南北方向の溝が見つかっています。近隣の調査成果を踏まえると、16 世紀後半の小田原北条氏の小田原城の頃は、この一帯にはおもに武家地があったと推定されます。

今回の調査区は大手筋に面した杉浦平太夫邸の敷地の北側に位置し、屋敷の勝手（台所）側や裏側にあたると考えられます。

小田原城関連年表

時代	城主	年号	西暦	おもなできごと
大森時代	大森頼春	応永24	1417	上杉禅秀の乱ののち、鎌倉公方足利持氏が駿河の頼春に小田原周辺の領地を与える。
	大森憲頼			
	大森実頼	享徳3	1454	享徳の乱が始まる（鎌倉公方と関東管領の内乱）。 この頃、大森氏が八幡山を城として拠点化する。
	大森氏頼			
北条時代	伊勢宗瑞	明応4	1495	伊豆国韮山の伊勢宗瑞 、大森藤頼を討ち小田原城を奪取。
	（北条早雲）	永正13	1516	伊勢宗瑞、新井城を攻め三浦氏を滅ぼし、相模国を平定。
	北条氏綱	永正15	1518	氏綱、父の伊勢宗瑞から家督を継承。伊勢氏の本拠が小田原に移る。
		大永3	1523	氏綱、名字を伊勢から北条（小田原北条氏）に改める。
		大永4	1524	扇谷上杉朝興を破り江戸城を奪取。この頃小田原城本丸・御用米曲輪・二の丸が成立か。
	北条氏康	天文10	1541	氏綱が死去、家督を氏康が相続する。
	北条氏政	永禄2	1559	氏康が隠居し、家督を氏政が相続する。
		永禄4	1561	長尾景虎（上杉謙信）が小田原に来攻し、城下に放火する。
		永禄12	1569	武田信玄が小田原城に来攻する。
	北条氏直	天正8	1580	氏直が家督を相続する。
		天正12	1584	小田原城三の丸新堀を普請し、三の丸外郭を構築。この頃、武蔵・相模の諸城を修築。
		天正15	1587	豊臣秀吉、北条氏に臣従を促す。小田原城の大修築（相府大普請）に着手。
		天正17	1589	豊臣秀吉、氏直に宣戦布告。
		天正18	1590	小田原城総構が完成。豊臣秀吉軍が小田原城を包囲。石垣山城を築く。
				小田原城が開城する。氏政は切腹、氏直は高野山追放（翌年赦免）。
前期 大久保時代	大久保忠世	天正18	1590	忠世、4万5千石で小田原城主となる。
	大久保忠隣	文禄3	1594	嫡男忠隣、6万5千石で家督を継ぐ。この頃小田原城を改修。
		慶長19	1614	忠隣が改易となり、二の丸・三の丸の石垣・城門などが破却される。
番城時代		慶長19	1614	小田原城は幕府の直轄となり、城代を置く番城となる。
	阿部正次	元和5	1619	上総国大多喜より阿部正次 、5万石で小田原城主となる。
		元和9	1623	再び幕府の直轄となり、城代を置く番城となる。
稲葉時代	稲葉正勝	寛永9	1632	下野国真岡より稲葉正勝、8万5千石で城主となる。
	稲葉正則	寛永10	1633	寛永小田原地震が発生。小田原城に被害。
				小田原城の公儀普請に着手。各所で改築が始まる。
		寛永20	1643	幕府より大手・二の丸・馬屋曲輪の橋の建造及び天守新築の許可が出る。
		寛文12	1672	小田原城近世化の最終的な計画を幕府に提出。箱根口門・馬出門などの枡形変更、石垣の積み足しを実施。
		延宝3	1675	小田原城近世化工事が完了する。
後期 大久保時代	大久保忠朝	貞享3	1686	下総国佐倉より大久保忠朝、10万3千石で城主となる。
	大久保忠増			
		元禄16	1703	元禄関東地震が発生。出火により小田原城と城下全域、小田原宿に甚大な被害。
		宝永3	1706	小田原城の修復が完成する。
		宝永4	1707	富士山が噴火して火山灰が降下。小田原藩領内に甚大な被害。
	大久保忠方			
	大久保忠興			
	大久保忠由			
	大久保忠顕	天明2	1782	天明小田原地震が発生。天守が傾き石垣が崩れる。
	大久保忠真	文化14	1817	小田原城下に大火発生。住吉橋が類焼。
	大久保忠愛			
		嘉永3	1850	韮山代官江川太郎左衛門（英龍）の指導で海岸に台場を築く（嘉永5年完成）。
	大久保忠礼	嘉永6	1853	嘉永小田原地震が発生。小田原城の各所に被害。
廃城後	大久保忠良	明治3	1870	小田原城の廃城願いを提出。天守閣以下主要な建物は払い下げられ解体。隅櫓のみが残る。
		明治6	1873	二の丸と丘陵部の一部が陸軍省所轄になる。
		明治23	1890	小田原城跡が陸軍省より元藩主大久保氏に払い下げになる。
		明治32	1899	御用邸建設計画が持ち上がり、小田原城内の用地約37,900坪が宮内省所管となる。
		明治34	1901	小田原城内に御用邸が竣成する。
		大正12	1923	関東大震災発生。天守台、本丸、二の丸など、小田原城の大半の石垣が崩落。
		昭和4	1929	県立小田原高等女学校・小田原第二小学校が二の丸に移転。
		昭和9	1934	隅櫓が再建される。
		昭和13	1938	第１次史跡指定（二の丸、総構の一部）。
		昭和34	1959	第２次史跡指定（本丸、二の丸、遺上読土塁）。
		昭和35	1960	天守閣再建される。
		昭和46	1971	常盤木門再建される。
		平成元	1989	住吉橋復元。以降、銅門（1997年）・馬出門（2009年）が復元される。
		平成23	2011	馬屋曲輪、史跡整備完了。



近世小田原城と今回の発掘調査地の位置

三の丸は北に幸田口門、南に箱根口門、東に大手門をかまえた堀と土塁、城壁で区画された範囲（赤線部分）です。大手門はもとは城郭の南側にありましたが、寛永 10 年（1633）に三代将軍徳川家光が京へ上洛するのに備えて、江戸に向いた現在の場所に新築されました。城内へ向かう大手筋には瓦葺きの堅牢な築地塀が築造されました。

小田原市史編さん委員会 1995『小田原市史　別編 城郭』小田原市（原図を一部改変）

『文久図』に描かれた近世小田原城と杉浦平太夫邸の位置（赤線部分）

国土地理院所蔵『迅速測図小田原旧城及市街』に描かれた小田原城址（明治 16（1883）年測量）

杉浦平太夫邸跡には東側に裁判所、西側に女学校が設置されました。裁判所は現在も同じ場所にあります。

公益財団法人 かながわ考古学財団

お問い合わせ （公財）かながわ考古学財団
〒232-0033　神奈川県横浜市南区中村町 3-191-1
電話　045-252-8689　FAX　045-261-8162
Email：fukyu@kaf.or.jp
財団 HP http://www.kaf.or.jp/

文化庁 地域の特色ある埋蔵文化財活用事業

小田原城三の丸杉浦平太夫邸跡第Ⅴ地点

見つかった遺構と遺物

⑥ A-1 区 17 世紀前葉の遺構面
寛永 10（1633）年に始まる小田原城改修工事直前の状況。写真①と同じ方向の溝、大手筋に沿った柱穴列が見つかりました。柱列は改修工事の際に設置されたようです。

⑦ A-1 区 16 世紀後葉の遺構面
北西側で方形土坑や北東側で井戸が見つかりました。写真⑪のように鍛冶工房があったことを示す鞴羽口（ふいごはぐち）や鉄滓（てっさい）が複数の土坑から出土しました。

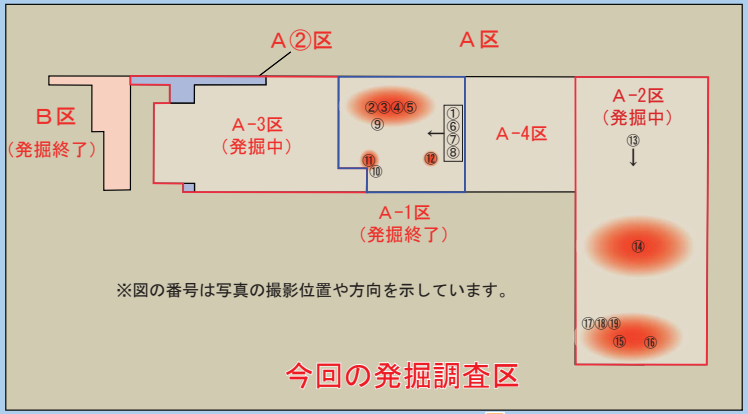
⑧ A-1 区 16 世紀中～後葉の遺構面
小田原北条時代の 16 世紀後半を通して付近には鍛冶工房があったようです。この遺構面からも複数の土坑（写真⑫など）から鞴羽口や取鍋（とりべ）、鉄滓等が出土しました。

⑨（写真左）A-1 区 瀬戸・美濃産灰釉皿（17 世紀前葉）
⑩（写真右）A-1 区 中国産（明）染付磁器皿（16 世紀）

⑬（写真右上）A-2 区 19 世紀の遺構面

① A-1 区 19 世紀の遺構面
石組み溝や石列の多くは 19 世紀中頃には埋められたようです。

② A-1 区 石組み溝（18 世紀）
奥の石組み溝にはこぶし大の礫が敷かれていました。手前側は素掘りの溝となっています。19 世紀中頃に埋められるまで、石組み溝は石列の積み増しなどの補修をしていました。



⑪（写真上）・⑫（写真下）A-1 区 鞴羽口（凝灰岩製）が出土した土坑（16 世紀中～後葉）

⑭ A-2 区 多量の石が捨てられていた大きな土坑（18 世紀前葉）

⑮ A-2 区 元禄関東地震（1703 年）時に発生した小田原大火の焼土を埋めた土坑

③ A-1 区 風祭石の水門
石組み溝には水門が設けられていました。水門は風祭石（箱根産の黒色溶結凝灰岩）を加工して作られています。

⑯ A-2 区 焼土を埋めた土坑の底から見つかった玉石敷き
もとは池があったところを焼土を片付けるために掘り直して埋めたようです。

④ A-1 区 石組み溝の下から見つかった古い石組み溝（17 世紀後葉）
18 世紀の石組み溝を築造する際に古い石組み溝の側石がはずされて一緒に埋められていました。

今回の発掘調査の位置とこれまで周辺で行われた調査地の状況
これまでの調査で杉浦平太夫の屋敷跡の一部が見つかっています（図示した遺構はおもに江戸時代後半の遺構）
原図（一部を改変）
かながわ考古学財団 2002『小田原城三の丸杉浦平太夫邸跡第Ⅲ地点』かながわ考古学財団調査報告 141
玉川文化財研究所 2017『小田原城三の丸杉浦平太夫・大久保弥六郎邸跡』小田原市

⑤ A-1 区 玉石を敷き詰めた石組み溝（17 世紀後葉）
古い石組み溝は小ぶりな玉石を丁寧に敷き詰めて築造されていました。上側の 18 世紀の石組み溝との違いがよくわかります。

⑰（写真左）・⑱（写真右）A-2 区 焼土から出土した陶磁器
瀬戸・美濃産灰釉皿・碗、天目碗、志野鉄絵皿、肥前産磁器小杯などが出土しました。焼けて釉が溶けていたもの（⑰）もありました。

⑲ A-2 区 焼土から出土した中国産（漳州窯系）色絵磁器大皿（17 世紀前葉）